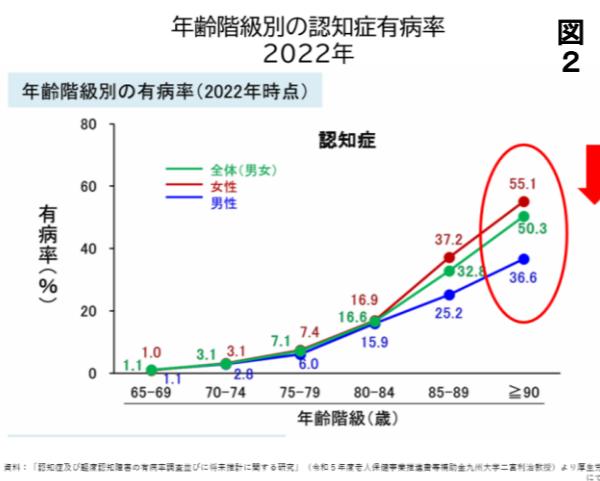


「ここが変わった、認知症診療」 について知っとこうか

認知症の診断に重要なのは、何といつても物忘れや判断力の低下などの認知機能低下に気づくことです。ご本人やご家族、場合によつては行きつけの店の店員さんや医療機関で何となく以前より認知機能が落ちていることに気づかれ、受診につながることが多いと思います。近年は認知症の早期診断早期治療が重要と考えられていますので何となくおかしいなと思ったら、まず医療機関にご相談いただくことが重要です。受診後に行うことはまず認知機能検査です。それと同時に体の動きや力が落ちていなかの評価も行います。

あります。脳に水がたまる水頭症、甲状腺機能低下症やビタミン欠乏症などの内分泌疾患による認知症、薬の影響による認知機能低下、一見認知症に見える早期診断治療に努めています。また、現在、4種類の抗認知症薬があります。根本治療薬ではありますんが、いずれも認知症の進行を遅らせる効果があり、広く使用されています。最近の話題として、脳にたまつたアミロイド β たんぱく質を取り除く点滴治療が2023年より日本でも保険適応になりました。アミロイド β はアルツハイマー型認知症の発症と進行に大きくかかわる物質と考えられており、これを取り除くことで認知症の進行を遅らせることができます。示されています。



その後に血液検査、頭部MRIや頭部CT検査を行い、脳が痛んでいいのかを評価します。最近では脳脊髄液検査やアミロイドPET検査などの検査を行うことでアルツハイマー病かどうかの診断が可能になりました。これらの検査で認知症かどうか、あるいはどのようなタイプの認知症かの診断を行っていきます。

この治療の効果を発揮するためには、最も大事なことは、できるだけ早期に治療を開始することとされています。少し物忘れが気になる方やご家族に指摘された方は早めに医療機関にご相談いただくことをお勧めいたします。

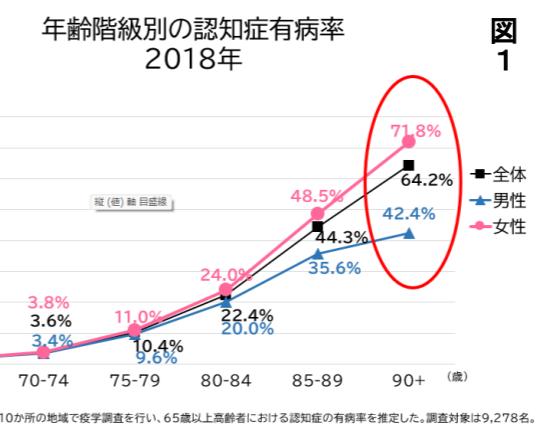
甲賀・湖南地域では、当院や認知症疾患センターである水口病院、介護福祉施設などが連携して、認知症になつても住みよい地域を作つていこう取り組んでいます。



小河秀郎
副院長
脳神經内科部長

認知症というものはそもそもどういった病気なのでしょうか？

認知症を起こす疾患は多種類あります。最も多いのがアルツハイマー病です。この疾患は、脳の中にアミロイド β というたんぱく質が加齢とともに蓄積し、記憶や判断に重要な脳神経がこれにより死滅していくため認知症が生じると考えられています。その他にも脳梗塞や脳出血などにより脳の大事な部分が障害され、て生じる血管性認知症や、シヌクレインというたんぱく質が脳に蓄積して生じるレビー小体型認知症などが知られています。



近年各地域で、危険因子を減らし、保護因子を増やす認知症予防への取り組みが活発に行われており、その結果、2018年と比較して2022年の認知症患者数が高齢化の進んだ日本でも減つていることが報告されています。
(図1・2)。このように生活習慣や意識を変えることで認知症は予防できると考えられています。

より良い療養環境を提供するため、院内にWi-Fiを整備致します。実現に向け、皆様からのご支援をお待ちしております。

心に寄り添う「つながり」を
Wi-Fiでより良い療養環境を提供したい

目標金額 1,500 万円

地方独立行政法人
公立甲賀病院
KOHKA PUBLIC HOSPITAL

寄付募集期間 10/1 水 8時 ~ 11/28 金 23時まで

お問合せ 公立甲賀病院 レディーフォー <https://readyfor.jp/projects/kohka-hp2025>

地方独立行政法人公立甲賀病院
〒528-0074 滋賀県甲賀市水口町松尾1256番地 MAIL : kh-cf@kohka-hp.or.jp

クラウドファンディング実施中！

総合相談窓口のご案内

下記の日時に行いますので、お気軽にご利用ください。

日 時 月～金曜日（祝日を除く）
8時30分～17時15分

場 所 診療棟正面ホール 相談コーナー

※当院職員にお声掛け願います。

当院を受診される際は、診察カードをご持参ください（お問い合わせの際にもお手元にご用意ください）